

大阪北部地震から5年

防災体制の強化により

安全安心の茨木へ

5年前の6月18日、茨木市を突然襲った震度6弱の揺れは、さまざまな混乱や被害をもたらしました。

市では当時の状況を検証し、教訓を生かそうと防災計画などの見直しを重ねながら、命と暮らしを守る体制づくりを強化しました。

問合先 危機管理課 ☎620・1617



道路への被害(天王一丁目)

※写真はすべて当時の様子

あの日の記憶と課題を、今後の災害へ生かすために

大阪北部地震が起こったのは月曜日の

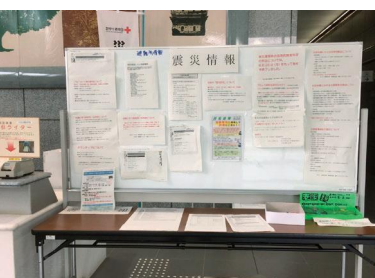
朝、通勤・通学の時間帯でした。目的地に向かっていた人は駅での足止めや電車内に閉じ込められるなど混乱。家や建物でも、市の広範囲で被害が発生。梅雨時ということもあって、屋根瓦への被害にはブルーシートで応急処置、家具の転倒や散乱した家財の片づけなどにも追われました。電気やガスなどライフラインも乱れ、ガスは全面回復に約1週間かかりました。避難所に身を寄せた人は最も多い日で750人。最後の避難所が閉じたのは、地震から47日後の8月4日でした。

災害に強いまちづくりを進めています

危機管理課 野崎 覚



今後も大きな地震が起こる可能性があります。風水害など自然災害も年々増えています。5年前よりもっと素早く、より細やかな対応ができるよう、市ではこれまでの防災計画などを大きく見直しました。とくに発生直後の支援体制を強化。市民の皆さんの安全・安心を守るための取組を推進しています。



被災者支援情報などの掲示
(市役所南館1階)



屋根にブルーシートを張った家屋
(中穂横二・三丁目)

大阪北部地震における
茨木市の被災状況

- 発生日時
平成30年6月18日午前7時58分
- 規模及び震度
マグニチュード6.1
最大震度6弱
(本震発生後、震度1以上54回、うち震度3以上6回)
- 人的被害
死亡1人
負傷102人(重傷53人、軽傷49人)
- 家屋被害
全壊 3棟、半壊 95棟、
一部損壊 1万3,511棟
- ライフライン
停電 約5,500戸
ガス供給停止 6万4,254戸
- 避難者
のべ6,264人
- 開設避難所
75カ所

「平成30年大阪府北部を震源とする地震等の記録及び災害対応の検証」より

詳しくはこちら ▶



いざというとき、命と暮らしを守る この5年で市が進めてきた主な対策

今後30年以内に70～80%の確率で起こるといわれる南海トラフ地震はマグニチュード8～9クラスの想定も。
市では社会情勢の変化に合わせてアップデートしながら、大規模災害でもすぐに対応できる体制の構築を進めています。



令和5年1月に実施した市職員による防災訓練



茨木市地域防災計画

避難所の 取組

安心して避難できる 避難所運営に向けて

市、地域、施設管理者のさらなる連携のもと、避難所を円滑に開設・運営ができるように基本的な考え方やポイントを示した避難所運営マニュアルを修正しました。

市・地域・施設管理者で 訓練を実施

避難所開設と運営にあたる市、地域、施設管理者が、災害が発生した時にそれぞれどのような行動を取るかを確認する初動確認訓練を実施。修正したマニュアルにしたがって、三者の連携がスムーズに取れるかなども確かめました。

避難所開設状況がわかるサービスや 避難所環境の充実も進行中

インターネットで避難所の開設状況や場所がわかるしくみを導入。避難所となる学校などの公共施設は耐震化だけでなく、空調やWi-Fi環境の整備、災害時用情報端末の配備などのほか、プライバシーを確保するパーティションや簡易トイレなど備蓄品の充実も進めています。

[迅速で円滑な災害対策に向けて]

計画を整備して事前に備える

災害時の防災体制や応急活動、復旧・復興対策などをまとめた「地域防災計画」と、災害発生時においても必要な通常業務の継続や早期再開するための「業務継続計画」を修正。「受援計画」も策定し、他の自治体や企業などへの応援要請や応援受け入れも円滑に対応できるようにしました。

職員間での速やかな情報共有

災害発生時の全市域の被害状況や避難所、職員の安否などの状況を把握することができる市の防災情報システムを整備。速やかに情報を共有し、部局間の連携体制を強化しました。

訓練を通じて実践・検証

修正・策定した各計画やマニュアルをもとに、災害対策本部の運営や羅災証明書発行などテーマに沿った訓練で実効性を検証。災害発生時の対応を細かく確認し、職員の災害対応力と市の防災体制のさらなる強化に努めています。

インターネットなどを 利用しない(できない)人に災害情報を発信

携帯電話やインターネットを利用しない(できない)人などを対象に、災害時の避難情報などの緊急情報を、固定電話やファックスへ自動で発信するサービス(登録制)を実施しています。また、屋外スピーカーの情報を電話(☎050-5433-9161)やインターネットで確認することができるサービスも同時に開始しました。

申し込み・問い合わせは
☎620-1617(危機管理課)まで



詳しくはこちら

大阪北部地震では家具の転倒やものの散乱による被害が多くみられました。季節の変わり目に合わせて家の中を見直し、防災対策にもなる部屋づくりをしてみませんか。

防災対策になる すっきりした家づくり

Living room

リビング



リビングをすっきりさせて、転倒や落下するものがない空間に。ものがないと掃除もラクでキレイな状態を保ちやすいだけでなく、災害の際も障害物がない避難しやすい

防災ポイント ①

**家具はできるだけ少なく
置くなら低めの家具を**

リビングには家具をできるだけ置かず、すっきりした空間に。転倒する可能性がある家具は、座る範囲にないほうが安心です。背が低いほど転倒しにくくより安全です。



テレビ台などに置く場合は固定しておく、なにかの拍子に当たって倒れたり落下したりするおそれがないので安心。もっとすっきりさせるなら壁掛けタイプ

**家具選びや配置のしかたで
危険は防げる**

ついもののがあふれてしまう、家具で圧迫感を感じて狭く感じるなど、住まいの悩みはいろいろです。夏に向けた衣替えの時期は、持ちものや空間づくりを見直したいチャンス。すっきり暮らしたい！と思っている人は、できる範囲で始めてみるのもいいかもしれません。

ものが少ない部屋は、実は安全に暮らせるというメリットも。棚が倒れたり、ものが落ちて怪我をしたりという危険は日常生活にも潜んでいます。収納のしかたや家具の向きなど、ちょっとしたことで防ぐことが可能。暮らしやすさはそのまま、防災対策にもつながります。

Kitchen



常時出しておきたい家電以外、調理器具や調味料、食器はシンクより下に収納するとすっきり。包丁などは使用後すぐに収納し、落下などを予防

防災ポイント ②

キッチンの上や周りも家電やものを置きすぎない

すっきりしたキッチンは転倒や落下するものが少なく、防災対策にも。収納をリビングから見えない場所にする、落下しても食卓やリビングへの影響を減らせます。



軽いものは上、重いものは下に。安定性を意識して収納

キッチン



ボックスなどに仕分けた収納は、見た目も使い勝手もよく、落ちても散乱しにくいので片付けがラク。落下防止用ベルトをつけるとベター

Book shelf

本棚



防災ポイント ③

本棚には要注意 転倒対策を忘れずに

本棚は倒れたときに最も被害が出やすい家具。天井で突っ張るか、床固定金具や耐震マットなどで固定を。また、重い本を下にすると重心が下がり、倒れにくくなります。

本棚は床や壁などに固定すれば安心。難しければ、倒れても人に危険が及ばない場所を選んで配置を

地震対策になる家具の置き方

- ☑ 寝る所、座る場所に家具を置かない。置く場合は家具の高さだけ離して
- ☑ 倒れたりものが落下したりしても、危険が少ない向きに
- ☑ 廊下やドアの近くは、倒れても出入口をふさがない場所や向きに
- ☑ 背の高い家具は壁への固定や、突っ張りポールなどで転倒防止を



Interview



青野秀紀さん
望さん
圭吾さん

シンプルな家は安全で子育てもしやすい

5年前の地震の経験もあって、家具は極力減らして倒れない、ものが飛び出さないことを重視しました。普段から安心でき、地震対策にもなっています。開放的な空間にしたことで暮らしやすく、子どもも自由にのびのびと過ごしています。

寝室

家具が倒れる向きや設置場所を最も重視したいのが寝室。部屋と一体化するような天井まで使う壁面収納など安全なものを



備え付けでないクローゼットなど高さのある家具は、突っ張りボールなどで固定を。高さとお行きをもたせると天井に引っかかって転倒防止に



Bed room

防災ポイント ④

寝室はとくに家具を少なく寝る場所に倒れないように

寝室は家具を極力減らし、置くならベッドから離れた場所へ。ベッド周りをすっきりさせれば何かあった時も安全で、すぐ逃げられます。配置換えが難しいなら固定を。

Interview

我が家の場合

「まずは自分で備える、整える」を大切にすっきり暮らしと防災を実現

障害がある息子と快適に過ごせて、災害時には「おうち避難所」にもなる家づくりをしています。ものが多いと息子の気が散るうえ、災害時も危険なので、造り付けの収納棚をメインに階段下スペースなども利用。家具も減らし、家全体をすっきりさせています。



森脇祥子さん
蓮太郎さん



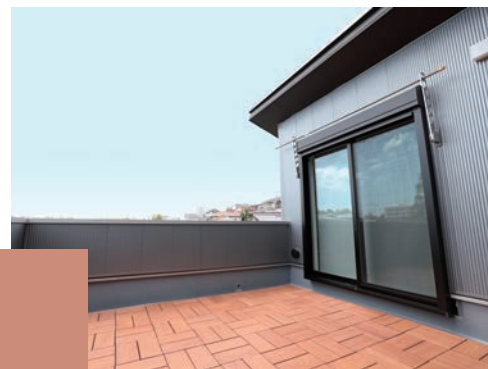
キッチンの奥に造り付けの収納を

収納の中はボックス型引き出しに仕分けて散乱しにくいように



バルコニー

できるだけ物を置かないようにすると掃除しやすく、強風で物が倒れたり、飛ばされたりする心配もなし



防災ポイント ⑤

廊下やベランダにもものを置きすぎない

出入りや家の中の移動はスムーズにしたいもの。ものにぶつかったりつまづいたりすると、ケガの原因にもなります。もの置き場にならないよう、すっきりと。

Balcony

玄関

避難路の確保は命を守るうえで大切。ものが散乱しないように、玄関まわりは扉付き収納がおすすめ



Hall



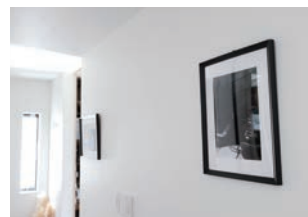
開き戸の家具には、子どものいたずら防止にもなるストッパーと、突っ張りボールで落下と転倒を予防。棚の上には突っ張り収納も便利

Interior etc...



インテリア雑貨をすっきり飾るなら、壁を傷つけないグッズをうまく活用。落下・破損でけがをしないよう、プラスチックや木など軽くて壊れにくいものを

インテリア 雑貨



耐震マットは滑り止めや転倒防止になるだけでなく、床のへこみや傷つき防止にも。冷蔵庫や重い家具の下に



日焼け防止やエアコンの節約にはUVや遮熱効果があるガラス飛散防止フィルムを。防犯にも防災対策にも



インテリアとしてLEDランタンを使えば、停電時も安心
※ガスランタンは室内での使用は危険

こんなものも
快適
& 防災に便利！

\\ 防災を日常生活の一部に。 //



関西大学
社会安全学部教授
奥村与志弘さん

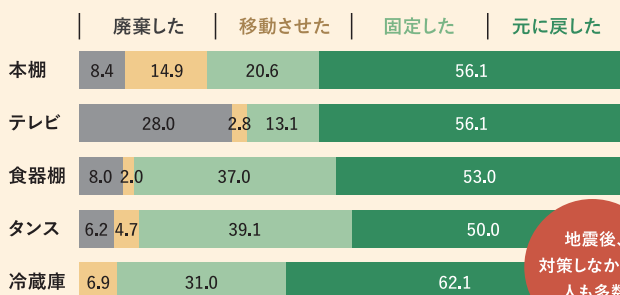
プロフィール
中央防災会議防災対策実行委員会、内閣府『南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会』委員。社会安全学分野の人材育成、地域活性化と防災・減災の両立をめざしたまちづくり支援など、多岐にわたり活躍

すっきりした家は、防災面から見てもメリットが多いです。家具を固定するなどの対策も大切です。しかし、大阪北部地震後の調査では、家具が転倒した人の約半数が元に戻しただけということがわかりました。特に危険なのは本棚です。寝ている時に重い棚や本の下敷きになると命に関わります。本棚はできるだけ寝室に置くのは避け、置く場合は寝る場所に倒れてこない場所や向きにしてください。

対策が大切だとわかっていてもできない人は多いものです。今後は、危険な家具を目にしたら声をかけるだけでなく、防災意識のある人が一緒に固定してあげるなどの取組が、防災対策を広げるために重要なことだと思います。

住まいを見直して、安全性の向上を
とくに本棚を置く位置や向きは命に関わります

■転倒した家具・家電への対応状況 (単位%)



地震後、
対策しなかった
人も多数

■大阪北部地震で転倒した家具・家電ベスト5

- 1 本棚 (18.9%)
- 1 テレビ (18.9%)
- 3 食器棚 (17.7%)
- 4 タンス (11.3%)
- 5 冷蔵庫 (5.1%)

家具や家電
が転倒した
市民は約半数

※関西大学社会安全学部総合防災・減災学分野 奥村研究室調べ